

科目区分	専門教育科目	科目名	介護実習2		科目コード	40802	担当者	実習担当教員	
対象学生	介護福祉士コース1年生	学期区分	1年	単位数	2	卒業要件	必修		
						免許・資格要件	介護福祉士必修		
科目の主題						成績評価の方法と割合			
実習区分（Ⅰ）の第2回目の実習である。特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、障害者施設、訪問介護での実習において、利用者の生活や個性を理解する。利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。						レポート・提出物（40%） 実習態度・評価（60%）			
科目の到達目標						教育目標に基づく学修成果の到達目標			
						誠実な人柄と人間力（尽心）	高度な知性と創造力（創造）	明確な意志と実践力（実践）	
1.	特別養護老人ホーム等、実習施設の役割を知る。					○	○	○	
2.	訪問介護を体験し、その意義が理解できる。（※該当者のみ）					○	○		
3.	人間的ふれあいの中で、利用者の理解を深めることができる。					○	○	○	
4.	日常生活上の基本的な生活援助が、指導者の指示で実践できる。					○	○	○	
5.	記録のもつ意味が理解できる。						○	○	
授業方法									
学外実習（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、障害者施設のいずれか一つに、10日間の実習である）									
準備学修（予習、復習等に必要な時間または具体的な学修内容）									
1) 実習の意義・目的を理解する。 2) 実習施設の概要、主な業務など、施設についての基礎知識を習得しておく。 3) 実習記録の方法について、理解しておく。 4) 認知症高齢者とのコミュニケーション技法について復習しておく。 5) 福祉関連法規について理解しておく。									
授業計画									
(1) 実習施設の理念とサービスの内容、利用者像を理解する。 (2) 在宅生活をしている人の生活を知り、訪問介護サービスの内容を理解する（※該当者のみ） (3) コミュニケーション技術を活用しながら、意図的に関わる。 ・利用者の意思伝達能力を把握する。 など (4) 利用者とのコミュニケーション過程をプロセスレコードに起こす。 ・知覚したことをありのままに表現する。 など (5) 利用者の状況に応じた援助が理解する。 (6) レクリエーションの計画、実施、評価を行う。 (7) 毎日実習計画を立て、実習日誌を記録することによって介護者としての自己の課題を明確にする。									
教科書・参考書					受講生へのメッセージ				
新・介護福祉士養成テキスト「介護総合演習」中央法規出版					前回の実習と比べると出来ることも増え、活動の幅も広がり、慌ただしくなってくると思います。実習後、一つ一つの実践を反省的に振り返るためにも、記録をしっかりと残しておきましょう。				